

シラバス情報

| | | |
|------------|---|-----|
| 授業方法 | 講義・実験・実習 | |
| 系列 | 自動車整備 | |
| 科目名 | シャシ電装整備 | |
| 必修・選択 | 必修科目・選択科目 | |
| 対象学科 | 一級自動車整備科・二級自動車整備科 | |
| 年次学期・曜日・時限 | 2年前期 | 木曜日 |
| 時限数 | 3・4時限あるいは5・6時限 | |
| 担当教員名 | 松原 吉彦 | |
| 実務経験 | 有 ・無 国土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立など自動車整備士としての経験を活かし、整備を行う上で必要となるシャシ電装の整備についての講義を実施する。 | |
| 授業の目的 | シャシ電装を構成する各部品の構造・機能、及び、それらの装置の作動及び整備作業について講義する。 | |
| テキスト | ①二級自動車シャシ（日本自動車整備振興会連合会 発行） | |

授業計画

| 授業回数 | テーマ | 内容・方法等 | 使用テキスト範囲 |
|------|---------|-------------------------------------|------------|
| 第1回 | 計器1 | スピード・メータ及びエンジン・タコメータの概要、及び構造等について解説 | ①P.173~175 |
| 第2回 | 計器2 | ウォータ・テンパレチャ・ゲージ等の各種計器類の概要等について解説 | ①P.176~179 |
| 第3回 | 警報装置1 | ライト消し忘れ警報装置の概要、構造、及び作動について解説 | ①P.180~182 |
| 第4回 | 警報装置2 | 各種ウォーニング・ランプ、及び液面警告装置の概要、作動等について解説 | ①P.181~182 |
| 第5回 | 外部診断器 | 外部診断器の概要及び特徴について解説 | ①P.183~185 |
| 第6回 | 空気調和装置1 | エアコンの概要、分類、構造、機能、及び冷凍サイクルについて解説 | ①P.186~188 |
| | 中間試験 | 第6回までの授業内容に関する筆記試験 | |
| 第7回 | 空気調和装置2 | 冷凍サイクルを構成する機能部品について解説 | ①P.188~194 |
| 第8回 | 空気調和装置3 | オート及びマニュアル・エアコンの構造、作動、種類、及び特徴について解説 | ①P.195~200 |
| 第9回 | 空気調和装置4 | 冷媒量の点検、冷媒の充てん作業、及び各部の点検、整備作業について解説 | ①P.200~203 |
| 第10回 | 安全装置1 | SRSエアバッグの概要、構造、機能、及び種類について解説 | ①P.210~213 |

| | | | |
|---------------|--|----------------------------------|------------|
| 第 11 回 | 安全装置 2 | シート・ベルトの概要、構造、機能、及び種類について解説 | ①P.213~215 |
| 第 12 回 | 付随装置 | カー・ナビゲーション装置の概要、構造、機能、及び種類について解説 | ①P.215~221 |
| | 期末試験 | 第1回～第12回までの授業内容に関する筆記試験 | |
| 到達目標 | シャシ電装の部品名称・構造・機能・作動を修得するとともに、それらの点検方法及び整備作業を理解する。 | | |
| 成績評価方法 | 平常点（小テスト、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度）、中間試験並びに期末試験を合算して行う。 | | |
| 定期試験受験資格 | 開講された全時限に出席し、レポート・ノートの提出が完了している者。欠席した時限がある場合は、補講も完了している者。 | | |
| 成績評価基準 | <p>成績評価は、期末試験の点数が40点以上を満足した上で、100点を満点とする整数について、次の割合で行う。</p> <p>中間試験の点数 30% 期末試験の点数 40% 平常点 30%</p> <p>上記の割合によって学期末の評点が60点以上である場合、以下によって評価する。</p> <p>60～69点 = 可、 70～79点 = 良、 80～89点 = 優、 90点以上 = 秀</p> <p>60点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで60点以上のとき履修を認定し、成績は60点 = 可とする。</p> | | |
| 成績評価できない場合の基準 | 全講義を終了時点の出席率が 50 % を満たしていない場合、又は、成績評価が 60 点未満の場合。 | | |